

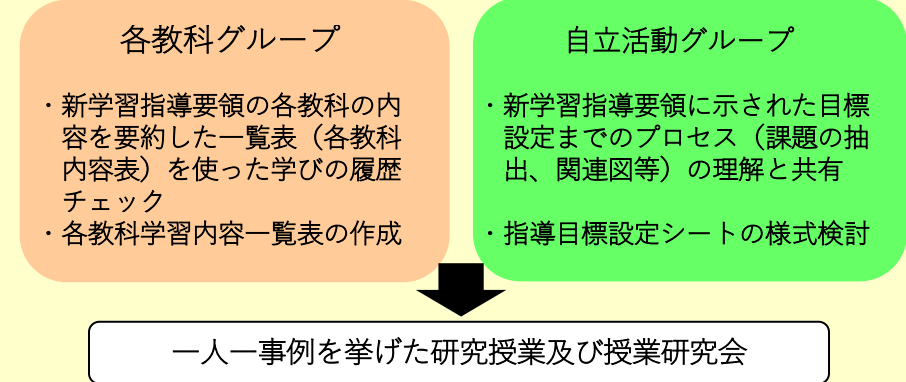
「各教科と自立活動の指導目標・指導内容の設定」

ア 講師招聘研修
 「重度・重複障がい教育における自立活動と教科の授業づくりの手続き」
 講師：長崎県立諫早特別支援学校主幹教諭 宮尾尚樹先生

各教科と自立活動の実態把握から指導内容の設定までの具体的手順、それぞれの違いについて理解を深めた。



イ 各教科と自立活動のグループによる研究
 国語、算数/数学と自立活動の3つのグループでそれぞれの授業づくりの手続きについて整理をし、研究授業及び授業研究会を実施



指導目標・内容の設定

各教科の取組

＜各教科内容表※を使った学びの履歴チェック＞

※「平成29～30年度特別支援教育に関する教育課程の編成についての実践研究充実事業」の取組として熊本支援学校、荒尾支援学校、菊池支援学校が検討・作成した一覧表

三つの柱	1段階
知識技能	ア ものの類別や分類・整理 P113 ① 注目し、指を差すつかもうとすると、目で追うの形を知り、区別 ② 形が同じものを選び、似た二つの結び付けを一つ対のものや線カードの組み合わせ ③ 同じものの集合づくり P113

- ・毎年度末に各教科の習得状況と既習事項をチェック
- ・3年間で各教科（国語、算数/数学）1枚の用紙を使用。

- ①習得状況を3段階で評価
 ○：8割以上だれとでもできる
 △：できたりできなかったりする
 ×：できない

- ②既習事項を示す
 学習した部分に下線を引く

各教科の内容の全体像が見えやすくなった。
 学びの履歴を視覚的に分かるようにすることで内容の偏り等に気付くことができた。

＜各教科学習内容一覧表の作成＞

1段階	具体的な学習内容
(7) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事柄の内容を表していることを感じること。P92 ※言葉の動きに気づく。 やり取りをする中で言葉と事柄を徐々に結びつけたり、自分なりの表現を繰り返す中で要求が相手に伝わり心地よい感情を持つ。	・教師や家族の声に反応する学習 ・本の読み聞かせを通して声に耳を傾け、繰り返しの言葉を聞き、同じ画面で（絵本：おきなな、いいからいい） ・絵本に出てくる動物や日常生活（絵本：できるかな、被差別：「口を
(4) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事柄やイメージに触れたりすること。P92 ※音節や語句の理解 音声の高さや抑揚などの違いによる意味の違いに気づく。 具体物を見たり、触ったりして実感しながら言葉と結びつける。	・絵本の読み聞かせを通して声の大小・高低、抑揚の違いを感じる学習 ・「おきなな、いいからいい」や「ちくちく」など絵本に出てきた動作や教師と一緒に行う学習（絵本：できるかな） ・「なわわわ」や「ちくちく」など絵本に出てきた動作や教師と一緒に行う学習（絵本：できるかな）

具体的な学習内容の一例
 国語科小学部1段階 ア 言葉の特徴や使い方

- ・繰り返しの言葉に気付く学習（絵本：おきなな、いいからいいから等）
- ・絵本に出てきた動作を教師と一緒に行う学習（絵本：できるかな）

- ・絵本の読み聞かせをととして声の大小・高低、抑揚の違いを感じる学習
- ・ふわふわ、ちくちく等具体物に触りながら言葉と感覚を一致させる学習

内容表に沿って、具体的にどのような学習が考えられるか、付箋紙に学習内容を書き記し、一覧表を作成

自立活動の取組

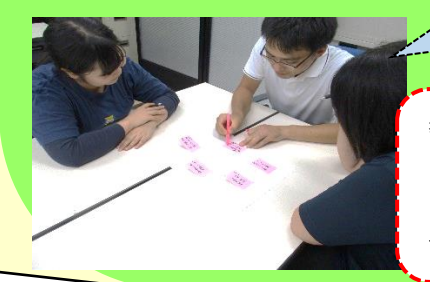
実態把握から年間指導目標設定までのプロセスを記入し、指導の根拠を示す。

＜目標設定のプロセスの理解と共有＞
 ツールを使った実態把握

指導事項	NO	チェック項目	健康状態との関係	年	年	年
知識と技能	1	状況に応じて必要なことを行う	Y/N	Y/N	Y/N	Y/N
態度	4	十分な休息がとれない	Y/N	Y/N	Y/N	Y/N
知識と技能	5	適切な食生活がとれない	Y/N	Y/N	Y/N	Y/N
態度	6	アレルギーマネジメントがとれない	Y/N	Y/N	Y/N	Y/N

長崎県立諫早特別支援学校「自立活動チェックリスト」

児童生徒の実態を客観的に捉えることができた。



＜目標設定シートの様式検討＞

【①-1】これまでの生活、学びの履歴
 【①-2】これまでの生活、学びの履歴
 【②-3】今後の生活と学びの目標
 【指導目標設定】
 【指導目標設定】
 【指導目標設定】

クラス・学部で課題の抽出、関連図について話し合い、目標設定のプロセスを共有

教師によって考え方が異なることもあり、複数の目で指導を組立てることの大切さを実感できた。

「重度・重複障がい教育における授業実践力の向上」

ア グループによる授業研究
 児童生徒の発達段階や学習内容に応じた縦割りのグループで授業研究会を実施

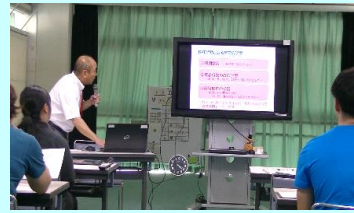
- A（感覚受容、表出手段の獲得）
 - B（力の入れ方・抜き方、姿勢保持）
 - C（目の使い方、目と手の協応）
 - D（概念行動形成、記号操作）
- 児童生徒の実態や学習内容に近いメンバーでグループを編成

イ 学習内容・教材教具アイデアの集積
 学習事例集の作成、国語、算数/数学の学習内容一覧表の充実

ウ スーパーティーチャー事業の活用
 授業参観・指導助言（各学期に1回）、講話（1学期）を実施

熊本県立松橋支援学校指導教諭 井上礼治先生による講話
 「障がいのある児童生徒への初期学習・概念形成の学習・記号操作の学習について」

児童生徒の発達段階や学習のねらい、具体的な教材や学習方法等について、理解を深めた。



授業実践力の向上

グループによる授業研究会の取組

＜Ⅰ 事例検討会＞

①授業者が現在の学習について「何故今この学習内容を取り扱っているのか」を説明

学校教育目標からめざす姿・指導内容までのつながり、各教科の学びの履歴、自立活動の目標設定のプロセス等

②授業実践の悩みについて協議（苓北アタック20）

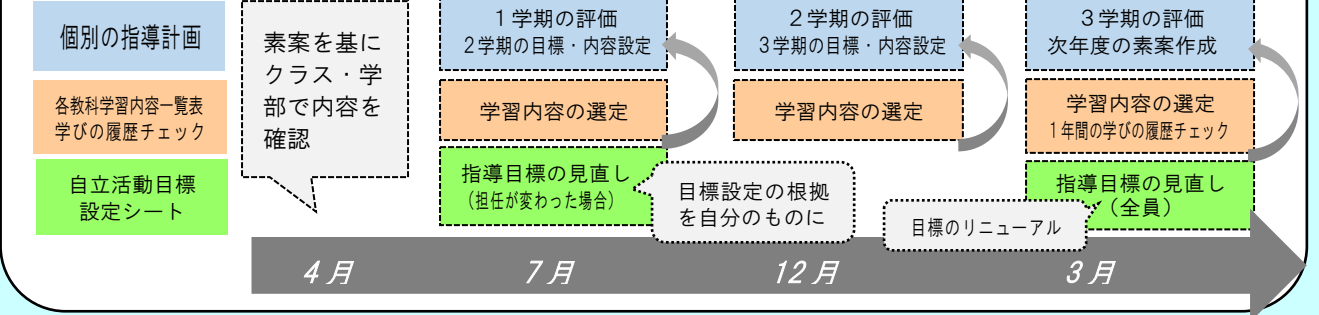
- ＜話し合いのルール＞
- ・事前に「お悩みシート」を記入し、グループ内に配付。
 - ・参加者は解決策を事前に考えておく。
 - ・話し合いは20分間。話が論点からそれないようにファシリテーターが進行。

意図的な動きを引き出すにはどうすればよいか・・・？

「あ」と「え」を間違わないようにするには・・・？

どこまで理解しているのか判断が難しい・・・

個別の指導計画作成と各ツールの活用スケジュール



苓北アタック20とは・・・？
 授業実践の悩みをグループの中で効率よく解決するための話し合いの方法

＜Ⅱ 研究授業＞
 グループ内で授業を参観

映像記録を活用し、児童生徒の様子を複数の目で分析

＜学習内容・教材アイデアの集積＞

- ・学習のねらい、教材の工夫等を一人一事例ずつまとめた「学習事例集」の作成
- ・学習事例や次のステップに進むアイデアを学習内容一覧表に整理

＜Ⅲ 授業研究会＞
 20分間で実施

- ①授業者自評
 - ②質疑応答・意見交換
 - ③次のステップに進むための学習アイデア
- 様々な書籍や資料を話し合いに活用
-

グループ内でアイデアを出し合うことで、効率よく次の学習への道筋を見出すことができた。